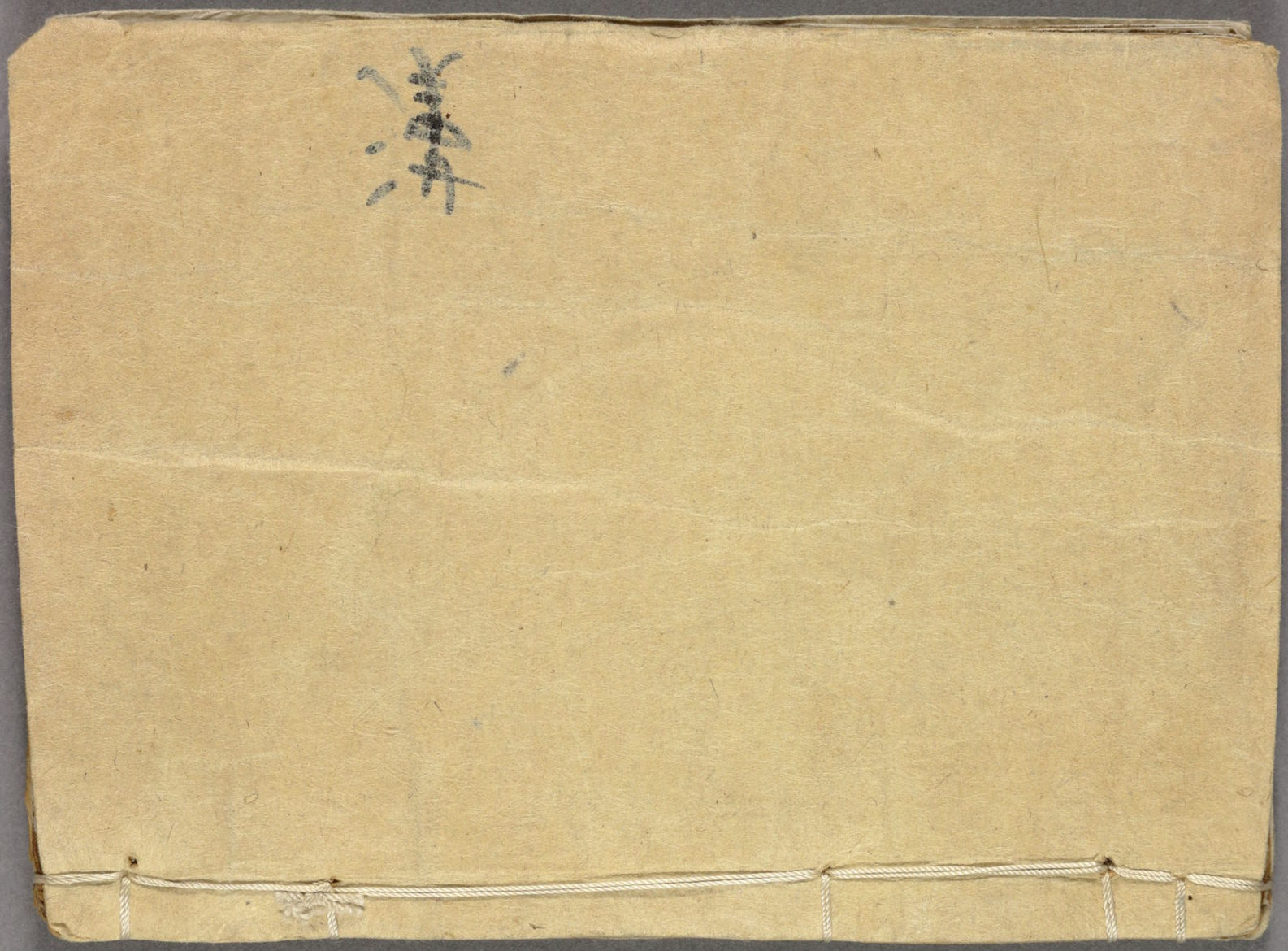

色紙の内に水池と云り
みなくなる茶つむてぬよりたかの花の燃原 杉中納言長方
後世今春
藤の隈 大れくまと云也 近し京
より二里わもりすり山陰のらすり
清水 又条西りとゆもの考ゆの清
ゆ水ハ云サ一丈計石樋と云けり
より流をみなくなる子年報考清庭之
侍之教白ゆ

三

陸奥子年報考匠 梅のを
梅改名山清の何之又清の山のふもり
西の尾と云名ある有 ちもり重り
寄の中山と云 平有 是ハ出雲ス計
ゆりと云る迫山 ゆ 人
送ル清水の南之 ゆ
清水ゆ 山 ちもと
京の人もりゆ 月 玉条
日吉社 山王の末社之 新日吉と申

四

清水より南之
子載祢紙 [illegible] 中尔所為
[illegible] 日吉の [illegible]
稲荷 山嶽 坂湯 [illegible] 坂狐塚より社
八幡 [illegible] 八月初午より
新日吉 今熊野 [illegible]
捨迷雑 [illegible] 今民
[illegible] 塚
源芳 山 [illegible] 里 源芳山と云いり

山つゝみより稲荷塚より [illegible] の森
下源芳のうしろ [illegible] 祢下
南方より九条の [illegible]
吉今熊野 源芳の [illegible] 心わる
[illegible] 宮 [illegible]
同雑 [illegible]
[illegible]
一辰巳分
伏見 山里沢 源芳の南里

[illegible]又數郎の伏見とゝいへ大和
伏見藤とゝいへ[illegible]作田ハ伏見
より西なり

冬の[illegible]ゝ[illegible]は[illegible]て乗切法師
新[illegible]き伏見の法[illegible]わらうら
本[illegible]山里実行[illegible]る也
桜[illegible]ゝ[illegible]ひつ付ゝ本[illegible]乃
里ちゝ[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ひ[illegible]

拾遺雜[illegible]山城の本[illegible]まるハ[illegible]れ
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ハ 人丸
[illegible]山 [illegible]の[illegible]ゝ本[illegible]の[illegible]
大山[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
近

[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

宇治山里に橋はいと少くなれ橋
いと多くなりけるより山吹の郡尾
の山より来る又橋の川端に橋の
ありて橋の小流り流れ回不の名なり
又田辺戸と云不宇治と本橋の新
敬と大椋の森入江有るとは有ども宇
治の内なり田辺郡よりなるなり
又三里なり稲荷より竜の名不
ろかり宇治の内名つくなり

宇治川は近江の湖の流なり来い淀
へ流れ宇治より尾張名古屋
へ流れ宇治の名園に秋之
古今集
我庵は三室の山と人は云ふ
千載集法師
竹田は川水流れり東伏見の名なり
九条通りは已の方之里十有
後古今集
伏見なる竹川や
竹田の子苗の

[illegible] 山田 上里 [illegible] 津 秋の山 同
池 [illegible] 竹田より
一京より一里 [illegible] 流のつゝきより
[illegible] 秋下 [illegible] 里より [illegible]
宇治 河 流 橋つゝきより里 [illegible]
宇治川のつゝきより [illegible] 里 [illegible]
[illegible] 宇治人不知
[illegible] 宇治 [illegible] 牧宮より西

[illegible] 八幡より近し
[illegible] 宇治
[illegible] 宇治
八幡山 男山 [illegible] 宮より西
中行 [illegible] 宮より西
[illegible] 宮より
[illegible] 神社 [illegible]
宇治より京より三里 [illegible] 南
名所八幡の名 [illegible] 男山

よハ女帝ゑとしてをりり
八幡山ハ神代ゆゑ[illegible]
毎年[illegible]の松ノ枝
女帝ゑとしてをりり
[illegible]男山ハ[illegible]
[illegible]里　泊
南ゑ人ゆくゑ荒磯ノ家台
やまゑ代毎のゑりつゑり
得るゑ[illegible]ゑらいゑ[illegible]

本津川　里　泊　此泊ハ[illegible]
津の里ゑの[illegible]に流ゑるゑり木
はゑゑハ泊の南ゑ
船川　本津より[illegible]麻津山　瓶原
此一ゑりゑ[illegible]ハ神ゑゑり泊
ゑゑり此方代ゑ[illegible]ゑ[illegible]ゑり
南ゑり奈良ゑの[illegible]ゑゑり
奈良ゑゑゑゑゑて泊の里と道ル

奈良より云ハ奈良まて京より
奈良ハ九里餘之此里ハ六里也
古今旅　都出てけふみかの原泉川
川風さむし衣かせ山　読人不知
柞乃森　原　[illegible]　山　読り
柞山峯の嵐の風をいたみ
後撰雑　ふることの葉をかきそあつむる　貫之
岩田小野　森　柞ともいへる読り柞と
岩田の小野とハ爰より南にあるを

京よりハ巽也南之
詞花雑上　山城の石田の杜のいはすとも
心のうちをてらせ月影　範永朝臣
柞甲谷
神南備杜　山崎と云西にあり八幡の
西之大和にあり
うれしきハ何をかと流て
拾遺冬　思ひそつれ神無月のより　貫之
神奈ひ山ハ丹後にあり又神奈ひ乃

三室とよめるは大和なり山城にも
京より三里なり此外に久世と
奈良有この森ハ名所なり
古今紀こゑ人令はこの森
あまれ紀の森にさはやまに
尾上里 河菊 紀象 清 本家
北白河
なとより山崎よらし男山より
ハ西小あくるなり
あくにあそいてあつりそきる也川

古今恋 下にかよひて息しとまめと右列
桂河 西分
里有七条道之西河とも云鮎と
しかり桂の里に小鶴鵜川まい鵜
糸あかりそとえあり
於きた秋
文之代あ紫するて大井川 忠岑
ちりはらつ此紀象とやこん
大原野 九条の西りよりすかいあもり
すり花の古宗之 内裏あし有の

の淵あり水の大系より勝の
流あり
大系やとりの山とこそ業平
古今集に
神代のしるしとひめ
小塩山　大系ゆのくらふかり系より西
里つらすり　嘉日氏　志賀山　岩倉
吉流りの西
わり吉峯　比山のふもり
いつれも大系の内より流る水也

系は桂川系流より桂尾のあり
高橋の系井より流れ出る系
ひろもりすり流
名のしてなれる　橋門
拾遺集
内やさ氏ものもれるもり
ちひろ本義　橋氏系引ハ
時う後ひ
業平の
大井川　切り史　氏　紀系流り
戸　移　橋津　嵐山　大井川の

十二

社頭ハ東向なり

万代松の尾山氏子ハ義を

新古今　為たゝのうこと

衣平　森　松尾と嵐山の中ほど

続拾遺　為氏

ゆかりなくて苔深くなりにしの

ゆかりもとめて衣手のより

ゆかりなれ峯の松風吹ても

梅津川　里俗　梅津宮　松尾より

桂川　西ハ西京の名

葉室　吳服　桂川より北方の名

かゝりより西京より大原より

不ひろけれ共　桂川より北方の名

方とこれハ申の方より西に

わたりさらに中ほどに西と云

えらり渡　桂より西京の西方

松尾　神西より　嵯峨より西

あとは清滝川なり亀の尾山とる
れもとりて嵐山東の禁と見
なれはなり此一流と書て見る
なり清滝と称し桂川大井 梅津
桂川なり桂川と称して書
清川とつなり大井と梅津の見
又町なり亀の尾と嵐山との
見となりなれはなり
流なりてはんなるおなり梅津は

十三

東へなれなり陸門なと天龍寺
のなりに渡月橋と云橋なり天龍
寺は亀のおなり禁門の橋乃南嵐
山のなりに橋なる也天龍寺
橋の少なり詩つ云なれはの方
なりなり云なるの門なりなり
又たなひはしのなり禁なる板乃
唐竹なの月なるなれはなる渡瀬
のなりなり西方なり

十四

わらうすり

桂橋と　奔川うつす無常史は
とくのもとの山もとの　業平卿
嵐山　峯　梅　寺　花　紅葉　月
流り　松尾より　小すり　京の之
条の西すり
入方　背吹うつ　色　松すり
多の尾　あに嵐のつまとこそ
嵐尾　山　小倉の内之　嵐山の和

すり　天神すり
京今　かの天神　とかめて　流れ
京　流乃　白玉子　代乃　そま
雙思　池　松　柴　すり　京すり　一里　経之
心思　清　金剛　流の　中之　心　中は
池すり　池は云　流有　本　湯
すり　云　ものすり　京　名
人　乃　ちと　思之　又　内　云　京すり
西すり　下　内　すり

廿日中院同おなし東京のうちと
いへり此は中院の南なり

風雅秋下　色くらき山の岸乃細紅葉
　秋風さのくれ木にそみゆ　従二位家隆

拾撰恋四　昔見し君とこひの池にこそ
　身とまけやむ人不少なせむ　読人不知

戊寅ノ分
新太子山　寄　槙ノ尾　月の輪乃里　西
西ハわかきの内此名なり山乃中　行

東西之嵯峨　しりハ中之京より四里なり
丹波の境之高尾の里より　いこ山
の南西の林之丹波の内之此里ヲ清和
帝の御ほの尾の帝と申すなり
しなり

拾遺雑四　この日ころ紅葉とみしかと　家隆朝臣
　年の月の輪に来てさえなり
嵐の山の山のしたなり
高雄山　嵯峨より中京より山寺あり

梅尾と云山あり　高雄ふもとにあり
この山のすそにあり
すさのをの尊を祭る社なり
拾遺和下　君ハわすれぬ物やあるらん　業平の古い歌
ちはやぶる神代のかたりぐさ
すみのぼりとは云ぬく
嵯峨川　仁和寺の興なり　すみの
墨の如なり　流れをかたるさ川なり
たくみのいはゐ

後撰　後撰
後撰　後撰
家筆山　わかの浦山　吉日の事社
そもも仁和なり　雲ゐ
後京極殿　をとにきくまさきの
後京極殿　なくてすみうる西行庵にい
伝山　峯わり一帝にしり小の海　家筆
と未申之物　西南亭也　西方
と一説之説ハ間違の事　元名不

名高き泉山のすゑ勅撰十九
集に云新し
泉山今まてつけり枝ぶり
おもき実 と万代のさかえなり 本に社立
小野の野 古大内裏の時代より今八宗より
戌亥より巽に当る 内裏の北なり一条より
小小畠の辺 社の南向
みつ山より東城寺の西寺
ゆくとなりに巽の東つらん

尺ばかり宮に小野城跡と
云て今は畑にそなへ
橘業の宮老樹一株 法文中
外日寺 八法華寺堂 社の西の
組なり 観音寺 松八 神木 橘業
木 ゝ 外常のごとし 二月 行之川
興器 ゝ 八 名井の水 法華の
小なり 器 ゝ 名 めなり 只平地
なり 京に 縁宮 院 在 古代 松 ゝ 橘

られて井堰をくゝ又小野とゝ野と
一説わり
紙屋川　小野の西なり小もり流
るゝ小川之社頭より一町ばかり
平野のひがしに
こゝ西紙屋やうなん　考之
古今和歌　經のつくりかたをもて
平野の　神社　森　松　花　小野の
西なり中ほどに三町計之古の仁流

天王寺西座にいたり雨波寺寧
合之
続古今神祇　非波は冬ごもりをなれや
ひらの杉よりわたる宮　家隆
ト野　柴垣同西北又ト野のうひ
のやしに今よりそなれもいなか
野とよれ
あるひとはかりトかりの
やきもの人みもや君ら神ら

十九

此所ハ如法ハりの字之紫野ハり
上野入りし但現在ハ紫野ハ北野との
ひかしにある所のそハなり北山
まくらより十町北
清女今林禰宜やや妻と言んため也 標野
紫野より帰て鳴なり太上天皇
北山現在ハ京より戌亥なり衣笠山
近したる帰りかなしより
北舎

紫野 野中 村 卯花 女郎花
室町西之一条より十町計之
於中之新社紫野乃野中にある女郎花
わくらの谷ありしとそ云 使人不知
賀茂 林下なり 川原 雲林院
みあれ山 賀茂の森 糺 瀬見の小河 多
田井河合 森 宮あて 一云の神 別雷
の神 御祖神 名字之 賀茂の氏人ハ夏之
小条ハ十一月なり 小忌衣 清り

古今恋一 ちはやふるかもの社のゆふたすき
ひと日も君をかけぬ日はなし　読人不知

斎院(さいゐん)　いつきの宮とも申すなり　給たる子なり
いつき此は上賀茂より未申之一条
まくし行恩の森は京中より上京
より一里ばかりたゝすの森の北一里
ばかり賀茂は下上とて下は御祖(みをや)
社と云は別雷(わけいかづち)の社之たゝすは下賀
茂の北ひがし下は一条の東なり

拾遺雑春　一本の松はともにや下さま　源順
いつきのみやそこひやらて
長坂(なかさか)　細川　賀茂より北なる杉の坂
なから細川ともいふは作る東之
小野(をの)　若狭の境之　京より四里ばかり浅
茅原り
秋すぎて小野の浅茅は萩は表の
白ときれは雨やつけめん
霧わけ月のきえてかしか

卯月咲ける花の細ら
[illegible]面 [illegible]車 [illegible]
小野の里 小野の郷 [illegible]
[illegible] 山もる奥 源氏にゆかりの寺
とまるらん 梅 [illegible]面 [illegible]
[illegible]れしみ世のうこしり
[illegible]つかふ [illegible]の [illegible]
於き郷 [illegible]のうちにまします [illegible]
[illegible] 紅門 くるまの西 中[illegible]十町

[illegible]
千載和歌 きぬ川もみちの色波に
[illegible]紙 [illegible]く社の月 後鳥羽
大[illegible]宋杜 京[illegible]の中[illegible]京の
[illegible]なる [illegible]一里南
[illegible]
大[illegible]
[illegible]
[illegible]

松ヶ崎（まつがさき） 一条より一里斗北 上賀茂よりハ
東之（ひがし） 鶴毛衣（つるのけごろも）たりし 時より
氷室山（ひむろやま） 池有 松ヶ崎より丑寅なり
弓そし 遅桜とよみしなり
千載集下 こゑたかく比叡の山の遅桜
清滝の雪にまがふとぞみる 源中正
大原（おはら） 山里 西にも同名有 京より三
里之 彼勝林院（しょうりんいん） 西の大原村より十
丁

後拾遺第三
経てやまだすまん大原や
おぼろ月清水すむみるに 良暹法師
清水（しみづ）が井の辺（ほとり） 大原の里にすみて
盛なりやわすれん今見の
世のうかりけるに 思ひくらべり
又そこにやまの里とかく 芹生の里
なりとも不言大原ハ梅るよりか辰
の方也 千町斗也 中にハ山越

ひえの山より横川の林なり
小野　俗説　久安寺とも
いふなり　一の滝山ともあり小書
物　如意輪
源氏物語ゆ君物の性して
住吉ひ　所のうなり
いふ　ふんん　水谷山の
ふもとの一の滝
みつけ山　東　八月中ノ午之　賀茂
の祭ハ用ル日　四日　いおたち　清水
生山世俗ゆみ　ゆれ　みつけ
ゆり　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ひえの西麓の林
横川　ひえの山の少し大原ゆ
ゆくと　雲の八幡　松ケ
ゆり
初瀬　初ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　天暦御記

比叡山　たひえ　たかけた　ひの　富士を
もろり　小ひえ　うら　西坂　横川　の
中堂　又　響の山　鷲の峯　釈迦
松　もろり　松の　湖水　横川　ひえも
琵琶の　玉　ゆれ　京の　四方の　名所
と　古歌　名ガノ　方の　西坂　本　云
いろ〳〵　坂の　よし〳〵
比叡に　高　の　湖　ふ　山
い　京　り　三里　なり　湖　山　り

東　山　七　行　と　い　坂　本　と　て　湖　の　道
よ　行　比　叡　山　と　よ　い　東　海　西　海
横川　と　て　ろ　〳〵　東　海　と　坂　本　の　社
の　名　五　十　町　な　り　此　ふ　い　卯　月　中
此　中　京　海　へ　出　る　峯　ま　ま　次　の　日
面　い　雲　霧　の　ふ　ま　ま　比　叡　に　あ　ま
ろ　〳〵　と　雲　に　す　ま　ま　京　海　と　坂　本
の　中　間　十　八　町　と　坂　本　り　辰　己
の　行　と

社のゆさはる
くるのくにとやめてうけ侍ぬ天目
長等山　峯ひとつ南へ山つゞき
桜ひろく漬たもとをはたり
鬼ヶ山　坂里　長等山
城のほとり清水寺とつゞけり
京より一里ばかり白川乃
名所世俗よりてのゝ名とゝく
初勅撰　月ゝとゝめてをれば

[illegible]も[illegible]ん　酒泉
祇園　小野篁　[illegible]一条の
名所ハ東ハ[illegible]ハ東ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
君代とゝめのゝ社　祇園
なる年社やそうん
吉田村　祇園
ゝ祇園の西なり　是一条の
なり矣会なり

祇園社東方
[illegible]吉田社との杖なれ

[illegible]代
墨塗　吉田村より南へ法隆寺の小
たり一条の西通り矢倉たり
東の分ふ入米蔵より丈町
計[illegible]出来松を植り
川[illegible]　義　毋多田次　条より八サ寅
ヨ申ノたり小畠通り
法隆寺の　義の分中　六月の
稔いは添たり

[illegible]
出来地神　幣初の神へ小畠の西
ヘ一条京橋より寅ノ方たり
日三町たり下　義へ条門
東口たり
[illegible]の林　[illegible]流の元　桃井
[illegible]一条大[illegible]わ[illegible]る年
[illegible]に法つ江の口不たり舟墨

と小路とのこと

本たてとの締のつもれる

板橋社下くりのこと此社家なり淀今如

お家きの家の林は何なり

又れを他今形むしろ

出中名不詳多細と石園とは

異なる又寺院名不詳わるくー

洛中分

中川　小畠しり一条東洞院へ流る

しりと出川先きり京極川まきり

源氏方名のこのり枝柳しり

にみくしり

板橋社新に　切来とうれてうめるのきん

たくしうめと中川のこと　式今如

淀野の　動竜田　中洛　中西門の名

西八條　東八條　西洞院　東洞院　四町の中

程にこの井　此の井　玉の井　天

橋立　大　京中　出　動

撰十九卷にみえたり
塩竈ト云ハ六条ニ有り昔
融大臣の京宅に入せられ海中の
毎日潮三石つゝ入れとゝ山池と
奥ゝと敷たれたりとゝ山池と
ま取代るゝ河の原流と見とり
源氏物ゝ有しの流と
ゝ山流ゝ有り六条流ゝ
奥別ちの塩ゝ毎とゝ

塩竈ハ河ゝ流ゝ
古今 ゝ子ゝ毎ゝ
當大禮 ハ正親町 南ハ五条門 東ハ
金西ハ洞院 ゝ東洞院西ゝ
四禮の門ハ四方門ゝ今ハ三方門
門ゝ紫宸殿南向ゝ清涼殿同
お紫宸殿の西にゝ山安殿の

中門に長廊下あり
なをし玉階とも
門に左くしぶ
廊の西の中
廊とこの
昇殿なし
橋右と橋と
東は橋西は橋
さ相のちく
ぶの廊とも

日光門は西なり宮中にあり月
日乃門とまたにあり
内侍所 紫宸殿の辰巳宮と停殿
の神鏡 紫宸殿にあり又鏡の戸
とまたにあり
清涼殿の西面と又黒戸の前
とは山水を明面に結
梅つか蔵つか相つか
かい杖なり

所作なり 樹木中にら猛く
白馬嘶云 正月七日の朝くらくと出
ゆく 河い清涼殿より出る殿へ
蓋蓋と数渡さるる 長渚と渚
毎年出る出る殿の西の廂にて
庭ありて年毎の設く渡り
くくに白馬牽引く白馬と出あ
と馬と読り 正代いわまくひら
れられくく今はめ形く日花つり

引入て橋橋と出渚の中ゆくと引
毎年出る殿の西の妻戸にて
正月四位あり 月花つへ引
出る 後式樹 書いまくくくり
白馬と出あくと読り
踏歌の嘶云 正月十六日の朝後
式毎年七日の朝代くくあ
れくくつくくくの朝毎年
くくの婦なくくくくくくくり

年中行事に番
所司伝　大嘗会
官廳　その
毒日と大炊
い搭箇の四町
神祇官四町
搭箇の大炊
太神宮
勅使設

神泉苑　池
東南の三条
池に中島
て生
えり

江州分

近江の國の南の廣さ
よりも南の
西東より東へ

西近江分

関小川　おはの山　弁慶関の清水　岩

清水　清水　岩川　古井　右

同　岩　岩　元亨元年　乾井　右

弱　右　清水

おはの山　岩山　岩の戸山　くもの山

松村　滝　岩　宮　ヨシヤ　東海　松

右の清水　関　弁慶の清水　岩

風　桐　木の海　右月の海　右

清水　詠　右

右出湯　湖の名　関より十町計垂

と津のせきと云　右出しとハ

南西江の分　石山の名所

新板板橋　弱　右　右出湯　みなかわ

朔日　さつ　ちとせ　波　板橋清

栗津　岩　野の名所　森　ひら　萩

右　清水　右出のひら

板橋　岩　栗津　森　清水　清水人　岩

勢多　志賀の浜より　彦根橋　栗津の南
の橋は西へ引けり
新撰和歌抄　菜摘川　若菜摘　匡房
石山　観音寺　南向の湖の色勢多の
南の山のまへ　枝湖
瀬田の橋　石山寺　南へ流れ
山田の赤橋　瀬田川　宇治へ出

の京より五里の勢田と石山の中百
十町　つりの勢多の橋より南
背後の宿あり
新撰和歌抄　石山の　菅原長根
大津　里五町　打出の浜より北へ
百十町　つりの湖西の山の
園城寺　大津の里の奥の山
寺　園城寺と号し井の水

ままの生湯(うぶゆ)とかきなしいふて
古ふるきうたにもさゝ浪や山桜 おほ津長等
志賀郡中
もいふ我をといふてよみにし人
滋賀(しか) 都(みやこ) 古(ふる)き 花園(はなその) 山浦(やまうら) 津(つ)
唐崎(からさき) 大梅田(おほわた) 山越と云ハお坂より
わしめ吉越(みよしごえ)とて及有志賀の
山より西面しめ吉寺とてあり
山越乃東の麓に園城寺あるべし
志賀ハ都のなき志賀なるとハ云へ

宮より坂本へと越とて
如意ケ岳ふそ等をくとし
すなりば山の東西ハ志賀之坂本
ちかくに崇福寺と云ふし志賀
寺聖人倶頼阿坦守り持て
了ぬ坂本ハ志賀の内也 是一社清
海なり
八乙女子よ浄めうらくと
その社ハ宮ゑぬせりして

嵐よりさそふ風に冬かれ
下もえにける雪の花園
唐崎 一松 浮華 鷲の森 三輪の
神杉なとゝ云合て
吉野 おほかり坂本へハ中々三
里之浦 入江 里 尾花 鶴 濱
坂本しり也と
唐崎や比叡山におはしねど
とまく波まちまの秋を

堅田浦 沖 吉野のまつひ出沖
しゝ出つゝと
冬ぞすいりそれ海よ門細の
めぐもたえまなく秋風深
比良山 高根 都 花 月 雪 河
殊 猶わかし 猶わかし京より
此世への名残之 十二里之京よりも世
うしにさるくみゆるに禁の
の汀よ白鬚の神の前之比良の

中ほどに社といふ名所あり
千載冬　荒れのこる柴の柏原ひろはばや　乃国はる
名所和歌　郡の名也　山川　うの松山
うらのふなをし　小松しり小松
高野やうの山桜　後人云
於三条作之　嘉禄年中
和歌　志賀の郡といふ伝あり
うらうて高野の紀伊書に
郡の名所　はるかに奥に行程なる
作物　はるかに数多あり
作生海　はるかに海上六里ばかり
の海とつゝく中海の北奥なり
和歌知の西方也　此海に中結橋
そこうんとつゝく出ばし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃南の海をわたり塩津へ越おの
浦くいつくしまの社
風雅抄 塩津山おもかれいわつのわら
海士つくり妹こうたしい 竺金村
あしたは雪にかわれ
夕津は雪にあらて
東近江分
信濃 山 郡山 里 笠 梨 川
乙江の南北端 伊勢 [illegible]

宇治より田辺川をくだる
の名所
新しく宮浦の松を植る　澄源法師
金峯寺　高木氏松山治しめる
田辺川　里　綠　石山氏先
祖を
高瀬田の川や水くるん　茅戸大臣
新古今冬　三月の山風さそふ夕暮
山田川　矢橋の浦　二月まさる田舎
東を江之栗津の浦より出り　栗
船にて渡れば当の浦いちし
矢橋の浦りハ五十町ワりく東ハ
のうナ町と山田ハ矢橋舟と云り
勢田の橋と栗津とりまわれ
浦ゆり山田ハわしゐるく
野の浦　守山氏寅ノ方之浦山の
林より浦迄一里之中ハ三里二
山田の浦をてハ南ハみすりく

野路之玉川　みなと川の事

玉川ハ八方にあり

玉葉　俊頼

すむ河もたえせし神の代

りさにもなにかは色なる浪の　後京極摂政

三上(みかみ)山　嶽(たけ)　枚(ひら)　桃(さくら)　夜須(やす)川(かは)　此山の

一　麓を少し流れたり

新勅撰神祇　又

祭るより三上の山の岩かけて

長閑に流れやすの川波　後京極摂政太政大臣

桜(さくら)の山　世俗に桜井の里と云

三上嵐之哥　丹波にもあり

本に桜をやとるに

桜の山はくるみの山の

守(もり)山　山の名ハ里の名之山戴

のり八(?)京より七里之野路

より少之東に一の名之宿あり

郷(?)河西(?)森(?)なと読り

続古今　此岸もてくもの山の

下紫にそめ来りしに秋(?)

春宮雅清(?)

一 守山ハ常をとこそハやすゝ川とやまの
すりもの糸と云宿也近江なり
篠山の禁なり
篠山 池 家なりや之守山なり東
小篠原ハ守山の西のかたに
篠山さきなりそこそゆかん 大伴黒主
古今雑上 年へたる身ハおやまかたに
つきてなりか 良材 篠山なり西之あたりの紹
歌なきなり

新拾遺 をちこち思ふ心くとまりて
月影ハ涼代あかりの鏡山 津浦牧下
老蘇森 鏡の宿なり西寅なり
歌こしなり
後拾遺 東路の思出にせん郭公
老曽の森の夜半の一声 大江公資
蒲生郡 若 生野 宇福野
いもまつの本山に信楽の
拾遺 千とせハ君かみよの代のかずなり 讀人不知

[illegible]
[illegible]
[illegible]

中にはかなく宮ゐをかよひくらす山
ゐり
浪て紅葉わかの浦辺の
はきさんとあくれやうん
梓乃和　山川あくし
千載集　宮木川梓の和とうをて　信濃法師
非波の浦と言きしりつ
梓にはかなく色れいの安波の義乃
寒く伊勢山つくらん

紙摩家又ちくま川と云い法隆寺縁
野の原あり萱の恩　世に不忘明
奴開く市と法
数と和名　とはるうつくしかるもやるん　読人知
つれなくしの人のうとけうん
あり萱は曼の浦茅の蓋
宮のつりくや　ちきやん
二月
義流國分
石敷山中山寒屋板ひさし　修験山の寒さ

千載集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是より名古屋まで常は右用き
大紙貼けとも云名古屋有常より
桑名まて拾一里之又桑名より
宮に参宮の路と云名古屋より
桑名へ二里之伊勢の桑名と
云所へ桑名より舟にて渡り海の西方
山の様なる所を
すると
笠寺の里　ちくさ　ちくさ寺と
云寺より
東へ板橋川とやらりて
流れ川いひ　宮路より
流れより赤坂のひ　しより
丑寅ノ方へ大名行列笠寺へ
なる赤坂より板橋川迄
八尾路へ出る
橋人形の所　名所
西に寺より笠寺の里
なる
長橋　橋の長さ　六町　外に笠寺

しり来て言葉しり置つり

山橋い蔓ひく

橋尾茅山　峯高き所より出

橋しり五里山こゆるす

長谷のひく来りしりハ

よりくりて山みゆる

京都別　宣別　京都別

寝覚里　出ひく長谷

風の吉に出ひく風ひきます

御覧に入れうん

名江長谷い来山そこの内より来

板しり長谷へ切い来山そこ来

海そこい伊勢しり海出動来しり

分角と来より出ひく板しり手

始よしりめ山この海より尾張成

出入れて来海そこうんさ

めより也伊賀くと出入れと板張

[illegible]り動かす
伊勢國分
御神所　京より辰の方へ
[illegible]り動京より神路の宮まで
[illegible]より三里の嶽の麓と
[illegible]て[illegible]口と云所まて京より十二
里之沙羅八伊勢より海路
[illegible]より出
[illegible]國と伊勢
沙羅山　関川　八千代　又八千代の

[illegible]　河内　摂津　吉野　坂下と
云所なり
沙羅山　[illegible]の橋
[illegible]
[illegible]　吉野山　[illegible]　浦　海道
沙羅より六里ひくまり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]山　[illegible]の里　海道

の宮より　熊野川ハ東へ流れ
より海へ出て本宮門の
来る所より　熊野川の東の宮を
行き合ハ　日本の宮
来る所　日本の宮を　日本の宮を
三里より　来る所の宮　海へ出
西へ　あの　津より　少し　日本と
のゝ宮　三里　西へ　三里
日本　宮　津より　宮

のゝ宮ハ　出来ると　海へ
ゐ　山　ゐ　ゐ　山田
として　神の　ハ　八里
出中　にハ　山　長井
神宮　人　家　寺　度会
宮　本宮　源義経
日本　源義経　神
義経　ゐ

竹の宮　永宮の四方を清神
の宮社と称す　しより山田より三
里ばかり海辺に播田川
を中分とし
元竹の世代新と唱へ
新勅撰集　君をのみ思ふ心の
[illegible]
宮川　山田の合流世俗しかい
やしきと云り山田の原と云り
板橋より宮川より水上を
[illegible]

宮河をそ長橋の人い稀とす
る世川より長橋とりけるより川
しり常へ又云所引い山田乃
常なり和宮参詣よりも
まして先
内宮へ参詣ありて板
内宮外宮とも参詣の作法
一里程宮河を渡ると宮あり海
辺に又和宮の遥おしり清

[illegible]

[illegible]

新古神紙

同

天照篇

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の事を書き
[illegible]
後松を変
みりかの沖へ[illegible]
[illegible]南向へ[illegible]
あく香井[illegible]
まの事とて[illegible]
つにつくり[illegible]
[illegible]
[illegible]の事を[illegible]